

平成28年7月25日

能美市議会議長 北野哲 様

基地対策特別委員会
委員長 杉田 隆一

能美市議会基地対策特別委員会行政視察報告書

1. 期 間 平成28年6月28日（火）～29日（水）
2. 視察先 航空自衛隊三沢基地（青森県三沢市）
3. 参加者 委員長 杉田 隆一 副委員長 森 善克
 委 員 東 正幸 委 員 米田 敏勝
 委 員 倉元 正順 委 員 山本 悟
4. 同 行 副市長 高塚 善衛
5. 随 行 議事調査課長 吉田 和司
6. 面談 第三航空団司令 空将補 今城 弘治
7. 説明員 第3航空団司令部監理部渉外室 防衛事務官 石井 孝之
8. 視察の概要

（1）施設概要

三沢基地は、航空自衛隊で唯一の日米共同使用基地であり、滑走路は、航空自衛隊と米軍に加え、民間の航空機も使用している。航空自衛隊と米軍とは、それぞれ独自の活動を行っており、お互いに明らかにされていない情報等も多いが、日米共同訓練や航空祭など、共同での活動も実施している。

広さは約33haであるが、米軍基地や共同使用の滑走路を含めると約1600haに及ぶ広大な面積である。また、

I、航空自衛隊の主な配属部隊

◎北部航空方面隊・・・防空任務及び領空侵犯に対する措置を行っており、次の部隊がある。

- ・第3航空団・・・戦闘機による防空行動と対領空侵犯措置、教育訓練、基地の維持運営
- ・北部航空警戒管制団・・・常時レーダーによる監視、スクランブル、情報収集
- ・第6高射群・・・ペトリオットを装備し、高高度、中高度から高速で侵

入する彼我不明機に対処。

・北部航空音楽隊・・・式典支援、慰問演奏、広報のための演奏会

◎警戒航空隊・・・E-2C 早期警戒機を擁しての警戒監視、管制

◎三沢ヘリコプター空輸隊・・・CH-47J による人員貨物等の輸送

◎三沢病院

II、保有航空機

F-2 支援戦闘機、T-4 中等練習機、E-2C 早期警戒機、

CH-47J 輸送ヘリコプター

III、三沢対地射爆撃場

三沢市、六ヶ所村にまたがる約 7 6 6 ha の射爆撃場で、模擬爆弾の投下訓練や射撃訓練に使用、日米共同使用

(2) 活動状況等

・北部防衛区域であるため、以前はソ連／ロシアに対するスクランブルが多かったが、冷戦後は少なくなってきたおり、最近は対中国が増えている。

・騒音対策として、21 時～7 時、日曜、祝日、行事のある日の飛行及び市街地上の飛行を自粛しており、近年は騒音に関しての住民とのトラブルはほとんど無い。

・航空祭の他、日米新年会、もちつき大会、アメリカンデー、体験搭乗、夏休みちびっ子ヤング大会、演奏会、三沢まつり、など多彩な交流イベントを実施することによって、市民及び米軍との交流を図り、基地に対する市民からの理解、信頼を得ている。

・三沢では、米軍基地に関連した小さなトラブルは無くはないが、これまで沖縄で何度も発生している悲惨な事件は発生していない。

・基地周辺市街地はアメリカの街並みを模した商店街や飲食店街が形成されるなど、素晴らしい街づくりが実現されていた。日中も商店街を歩くアメリカ人で賑わっており、いかにも基地の街といった印象であった。

・終戦直後から、進駐軍や米軍が何度も配置と撤退を繰り返すなど、振り回されてきたにも関わらず、三沢地区の住民は辛抱強く、常に基地との「共存共栄」を基本に据え努力されてきた歴史が今日の良好な関係を産んでいると思われる。その要因の一つは、この三沢地区には他に頼りとなる産業は少なく、基地に対する依存が強いことであろう。

(3) まとめ

航空自衛隊の任務の一つは、日本領空へ領空侵犯する、あるいは可能性のある脅威の排除にある。領空侵犯を匂わす近隣諸国の行動は、日本との領土問題や政治経

済問題等の軋轢とも深い関係にあり、このことは最近の国際情勢、特に中国、北朝鮮の状況から判断すると、ますます拍車がかかってきており、小松基地同様三沢基地も任務の重要性が増してきている。

三沢基地においても、当然のことながら騒音の問題があり、また射爆撃場の危険性の問題も抱えているが、航空自衛隊三沢基地一丸となった工夫と努力、そして、住民からの理解と信頼に支えられて、良好な関係が築かれ、維持されている。

一方、航空自衛隊小松基地に隣接する能美市でも、基地を抱えた他の自治体同様、騒音及び事故の危険性をはらんだ基地周辺の生活環境の改善に今後とも取り組んでいかなければならないが、航空機騒音に悩まされている市民感情も十分に考慮し、安心して暮らせる環境づくりを目指していくうえで、三沢基地や三沢地区の取り組みを参考にしながら、基地との間で良好な関係を維持することによって、周辺対策を推進していく必要がある。